

大丈夫があるから頑張っていける!

「震災ボランティアと若者たちこそその学びと支援を考えること」に参加してベースセッションを行ってきました。ベースセッションとは参加者が自由に各ベースに立ち寄って説明者と意見交換を行うことで、私は、「中学生による被災地からの希望の発信」というタイトルで震災後から行っているボランティア活動や学校全体の取

11月6日、文部科学省で行われた「全国生涯ネットワークフォーラム2001（まなびピア2001）」に、2年生の高橋莉子と私は佐藤考平が参加してきました。

平成23年
12月2日(金)
大船渡市立
第一中学校
学校新聞「希望」
第15号
発行責任者高橋莉子

今月、埼玉県の一般の方々が一中へ支援として毎月五千円を送りたいというメールが届きました。とてもうれしかったので、さすが、私たちよりキモフと被災している学校があるというところをお断りしました。

り組み、学校新聞「希望」について展示しました。

うよう

心に残っているのは、質問、意見とは別に、「私たちに何かできることがあるたら何でも言ってください」と多くの方に最後にはげま

りしましたが、私たちの支援をしたいと
いう心遣いはとてもうれしかったです。
本当にありがとうございました。
生徒の皆さんも被災地のことを考えてくださる
人、支援をくださる人に感謝します。

校の生徒からの支獲物
貢です。お米も俵もす
べて生徒のみなさんヶ
作ってくれたそうです。
現在、そのお米は給食
のご飯として、これで
います。とてもおいし
いです。

震災後、被災地には
全国からたくさん人の物
資が届いています。こ

11月14日、大船渡市
立第一中学校に米俵が
三俵届きました。この
米俵は新潟県春東中学

私達中学生よりも多くの人に困っている子供たちに送った方がいいのではないかと思つたりもします。でも大いやくに届く物資は全部私達のものなので、大切に預けたいと思います。本当にありがとうございます。

鬼います。私達大一也
は、彼笑していないで
すがたくさんんの物資が
来ます。福島県の原発
でせ、かくお米を収穫
しても食べられないで
悔しい鬼をしています
方々や仮設住宅に住む
方々の方々が物資を必要
としているのに正直、
頂いてもいいのかで

地元から復興に向けた活動をしたいと思いません。」(文・佐藤考平)

をとソ、短い間でした
が、交流を深める一
ヶでキました。これが
らも何がの機会で交流
できたらいいなと思
います。

「ハムチーク」と戦い、
一中が優勝しました。
試合の他にも大谷中学校の全校生徒が生徒会を中心へ歓迎してくれて、千羽鶴をいただけ
ました。休日にもかかわらず、一中を歓迎していただき、ありがとうございました。